

会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	佐渡市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	令和元年 (2019) 5 月 21 日 (火) 10:00 開会
場 所	佐渡市役所 会議室棟 1階 第2会議室
議 題	① 平成 29・30 年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価について ②「第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画」ニーズ調査の結果報告について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出 席 者	参加者 有識者・子育て中の親 10 人 事務局 佐渡市市民福祉部 子ども若者課 課長 市橋法子 課長補佐 藤井隆博 子ども若者相談センター センター長 石井恭子 園児支援係長 本田寿之 子育て支援係長 余湖雅美 子育て企画係長 平岩繁美 主任 須田大輔 補助説明者 (株)オリス・日経マシナリー(株)共同企業体 熊倉
会 議 資 料	(事前送付) ・平成 29・30 年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価票 ・ニーズ調査結果報告書 (就学前・小学校) ・ニーズ調査結果報告書 (概要版) (当日配布) ・平成 29・30 年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価票 (総括) ・ ” (子ども若者課評価票)
傍 聴 人 の 数	0 人
備 考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>【平成 29・30 年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価について】</p> <p>○平成 29・30 年度佐渡市子ども・子育て支援事業評価票について、施策の体系の 4 つの基本目標の計画、実行、評価、改善について説明を行い、その後、平成 29 年度と平成 30 年度を比較し、評価が違った事業について担当者から説明を行う。評価が妥当であったかどうか審議していただき、いただいた意見等については、今後の子ども・子育て支援事業の事業内容、事業対象等の具体的な行動計画に反映させる。</p>
A 氏	<p>【質疑応答】</p> <p>(1・子育て)</p> <p>○保育園においていろいろな食育事業をしていただいている。保育園によって特色のある事業をしていると思うが、保育士によってやる内容が違うのはどうか。ほとんどの保育園は郷土料理（おこし型）をやっている保育園が多いと思うが、クッキーに興味のある保育士がいる保育園ではクッキー作りをやっている。そしてその保育士が異動するとクッキー作りはやらない。どこの保育園に行っても食育事業が行え、食に触れる機会が増え、興味関心を持ってもらえるように保育園に働きかけてほしい。小学校の給食献立表の裏に食材や生産者の情報が載っている。保護者としてもこの情報がありがたく、子どもも給食を楽しみに登校している。市内のある保育園では、給食の内容をフェイスブック等載せてビジュアル化している。給食の内容を子どもに聞いていも「美味しい」だけなので、家での好き嫌いが改善できない。給食センターで作ったものを保護者が見られるような機会を作っていただきたい。内容を知ることにより、子どもとの会話が広がり、コミュニケーションにもつながる。また、食への関心も高められると思う。是非検討していただきたい。</p>
事務局	<p>○職員によって食育の内容が異なるのは良くない。食育事業は健康推進室と子ども若者課と一緒に子どもたちの健康という部分で食育計画がある。今年度は、佐渡の子どもたちに佐渡の美味しいものを食べてもらう</p>

B氏	<p>食育事業を積極的に行う予定である。いただいたご意見は栄養士に伝え、今後子どもたちが更に美味しい給食を食べられるような活動をしていく。</p> <p>給食のビジュアル化については、学校教育課に相談させていただき、取り組めるところは積極的に取り組んでいく。</p> <p>○「みらいずノート」の活用内容は。</p>
C氏（小学校長）	<p>○小学校の高学年を対象にキャリア教育の推進という点で、できるだけ佐渡の郷土愛、誇りを持ってほしいという意味から作られた。小学校の段階から自分の将来を自分自身で考えながら、どういう未来を自分で作っていくかという構想を練るためのノートである。効果については、今後子どもたちの様子を見て、中学校にも引き継がれるノートである。実際の評価、効果についてはこれからが本格的となる。高校、大学を卒業してから佐渡を思って、佐渡に戻ってきてくれるか、佐渡のことを考え島外に発信してくれるかという評価を今後していかなければならない。</p>
事務局	<p>○平成24・25年度にキャリア教育推進のために、みらいずノートを導入した。当初は、一部の学校でモデル的な取り組みから始まり、30年度評価では全ての学校に配布し活用しているとある。子どもたちが将来大人になって、こんな佐渡にしたいと思っていた、こんな将来を描いていた、佐渡でできることがあれば佐渡へ帰ろうという思いを持っていただくことを目的にみらいずノートを作成している。</p>
D氏	<p>○心の教室について、小中学校の設置が非常に少ない。なってしまったからのケアは充実してきているが、件数等心の教室自体がどの程度になっているのか。学校の中であれば予防できるが、考えていることややっていること、方向性等をお聞かせ願いたい。</p>
事務局	<p>○件数等については後ほど回答する。</p> <p>ここ数年、子どもたちが学校に行けない、教室に入れない、という状況を教育委員会でも重く受け止めている。学校教育課では指導する先生の人員及び勤務日数を増やし、不登校の多い子どもたちの学校を重点的に訪問している。心の相談は、カウンセラーを導入し行っている。子ども若者相談センターでは臨床心理士を採用し、いろいろな事案に応じてカウンセラーだけでは対応できない部分を庁内で共有しながら対応してい</p>

	<p>る。子どもたちの心の変化、親との関わり、人との関わり等不安定になっているところが見受けられる部分を早めに気づき、子どもの声を聞くという点を重点的に行っている。SOSを見逃さず対応する取り組みを進めている。今後もこの取り組みを縮小するつもりはなく、縮小はできないと考えている。子ども若者相談センターを立ち上げて以後、療育部門のベースはできてきているが、学童期と青年期が今後の課題である。学童期は教育委員会との連携が必須であるため、子ども若者相談センターから報告のあった不登校、引きこもり、学校に来ることができない、来ていても自分の気持ちが出せない等の子どもを学校でキャッチして、情報を共有している。</p>
D 氏	<p>○教室自体が増えるということではなく、事案が発生した場合、対応できる体制はできているということか。</p>
事務局	<p>○教室を増やすかどうかは今、回答はできない。ただ人材不足とは聞いている。学校の先生だけで対応することは無理であり、カウンセラーであっても学校に常駐ではない。佐渡市はコミュニティスクールを推進しているが、いろいろな関わりを持つ中で、子どもたちが SOS を出せる状況を作ることを教育委員会が考えていると思う。これらを踏まえ後ほど回答する。</p>
A 氏	<p>○保育園の環境を横並びにしてほしいと要望したが、小学校の事例を一つ挙げる。</p> <p>スキー事業について、佐渡市のスキー場を使って近隣の小学校は授業を行っているという話を聞く。地域的に移動距離、授業の時間数等で難しいことかもしれないが行事の均一化を図ってほしい。学校で連れて行ってくれるのであれば、家庭でできないことを経験させてもらえという話を聞く。</p>
事務局	<p>○スキー事業の平等化の意見があったことを教育委員会に伝える。今年度、授業カリキュラムを捻出するという事は難しいのか。</p>
C 氏 (小学校長)	<p>○私の小学校は近いので毎年実施している。やはり、南部、北部は移動時間がかかる。丸一日かけて移動し、できる時間は1時間か2時間という状況では厳しい。</p>
事務局	<p>○私の住む地域では、子ども会で弁当を持って1日かけてスキーに行った。</p>

E 氏	<p>この経験を学校の授業でというのも一つの選択かと思うが、子ども会でやることにより、親との交流も取れたので良い機会であったと思う。</p> <p>○資料No.4 のキャリア教育の部分で郷土愛の醸成ができたと評価しているが、醸成できたと評価してしまうと事業が完了してしまう。キャリア教育は大変息の長い取り組みであるので、継続が必要であるとして欲しい。また、今後も取り組みを続けてほしい。</p>
事務局	<p>○修正する。</p> <p>(2・親育ち)</p>
D 氏	<p>○トキっ子応援プログラムについて、アンケートでもこの冊子が必要だ、ためになったとある。冊子を見てわかった、見た、助かったという方が大変多い。冊子、ホームページも必要だが、圧倒的に情報が不足している。この整備をどこまでやるのか。</p>
事務局	<p>○アンケート結果で、今求められているものは、情報だとわかった。紙媒体だけではなくスマホ等も活用した情報発信方法を情報政策課と相談している。県の「ハピニィ」も活用しながら情報発信をすることも考えている。紙媒体では情報の更新が難しく、経費がかかってしまうので、今ある一定の応援プログラムは窓口に置きながら、SNS での情報発信を前向きに考えている。</p>
D 氏	<p>○何年か経過している。</p>
事務局	<p>○佐渡市のホームページの見直しも言い続けて4年くらい経っている。メディア、SNS の活用を進めていく予定である。</p> <p>(3・地域育ち)</p>
D 氏	<p>○ファミリーサポートセンターについて。</p> <p>アンケート結果から誰にも頼ることができない方が佐渡に100人以上いたと思う。その100人を対象とした時にファミリーサポートセンターはとても有効であると思う。しかし、提供者の家でサポートすることが原則であれば、ベビーシッターの制度も必要になってくるのではないか。</p>

	<p>どうしても相談できない、頼るところがない、外に出ることができない方が100人以上いるということが数字で出てきている。心に問題を抱えている方、人間関係に悩んでいる方の他に最近では外国人のお母さんで、相談しづらい孤独の中で生活をしている方が多くいることを日々の活動の中で感じる。ファミリーサポートセンターはとても良い制度であるので、周知を重点的に行い、外国人にも伝えてほしい。これをやれば全てに通じる。</p> <p>子どもの居場所事業について。</p> <p>使いづらい制度であると言いつけている。この事業に改善等はあるのか。やりたいこと、構想があっても条件が合わなくできないということがあがる。良い制度があるのに使えないとなると意味がないのではないかな。</p> <p>コミュニティスクールについて。</p> <p>学校教育委員として会議に参加しているが、会議に参加して感じることは、地域の人たちに知ってもらいたい、やってもらいたい、入ってもらいたい、というのは理解できるのだが、その認識に学校側、やる側がわかっていないのではないかな。予算が無く、チラシも作れない状況の中、努力義務の部分が多く、運営していけない。コミュニティスクールの意義を地域の方もわかっていない。予算付けをし、地域の方を巻き込むからには、行政も縦割りではない業務を行ってもらいたい。羽茂子ども教室は地域を巻き込みながらやっている。そのノウハウをもらいながら教育委員会とコミュニティスクールを作り上げていくべきである。やり方の統一、予算付けが必要である。また、いろいろな意見を広範囲から求めるべきである。</p>
事務局	<p>○ファミリーサポートセンターについて。</p> <p>会員の方の話として、周知に関しては広報、ホームページ等で目にするのが、もう一歩踏み込んだ内容を知りたい時に知る場所が無いという意見があった。今年度は、健康推進室が行っている乳児検診等、直接お母さん方とお会いできる場にこちらから出向いて、実際の利用方法について話をする計画である。ニーズが広がってきており、例として、双子のお母さんが外に出たい時、原則依頼会員の自宅には行けないのだが、依頼会員と一緒に提供会員が外出をして双子の面倒を見るというケースがあった。サポート的な役割を持つという活動もできるということを周知する予定である。</p>
事務局	<p>○ファミリーサポートセンターについて、課題がたくさん見えてきた。特</p>

<p>D 氏</p> <p>事務局</p>	<p>に外国人の対応等が今後必ず出てくると思う。皆さん一生懸命子育てをしている。そんな方に寄り添える支援になるようにと考えている。</p> <p>居場所づくりの補助金について、使いにくい原因に 1/2 補助の制限がある点だと思う。佐渡市の 1/2 補助という制度を変えることは難しい。見直しという点では、子ども食堂について県の 20 万円補助等、いろいろな補助が出てきた。今年度、県の少子化対策課でも居場所づくりの補助金が出てきたので、支援団体の方にわかりやすくお伝えする予定である。また、1/2 補助でも使いやすく活用できるように見直しを行う予定であるが、今年度中の改正は難しいかもしれない。</p> <p>コミュニティスクールについて、実現したら素晴らしいと思っている。新穂地区では小中学校一緒にやっていると聞く。何校かモデル校を設置し、話し合いがなされていると聞いているが、本当の意義を全員が理解しているかという疑問である。学校教育課に伝えるが、国や県の予算等が厳しい状況となっていることも事実である。国は推進をしているが、地域でやることなので自治体で努力せよということになっている。今後つめていく必要があり、その努力は行政がするべきところである。縦割り業務は私も感じている。利用される方からすれば同じ佐渡市であるので、そこを念頭に置き連携を図ることが、私どもの第一命題としてやっていくことだと思う。ご提案として賜わり、教育委員会に伝える。</p> <p>(4・サービスの充実・環境の整備)</p> <p>○育児休業について。</p> <p>仕事と子育ての両立についてアンケート結果の中で意見がたくさん出てきた。男女共同参画事業の会議に 5 年間参加しているが、一向に変化が見られない。セミナーを開催しても、宣伝を頑張っても一向に伸びない。少子化対策も変化が無い。理由を考えると、企画課と子ども若者課等の横の連携が無いのではないか。どのようになっているか。</p> <p>○どの事業であっても連携は必要であると思う。子ども若者課は保育園等、子どもに関わることが多く、サービスを提供するにあたっては、サービスの先行は良くないと伝えている。働く職場が変わらなければサービスばかり提供しても子どもがかわいそうなだけである。企画課、地域振興課は雇用対策、企業との連携を図っているので、企業で男性の育休制度を導入した場合にメリットを受けられるようにしている。県のハッピーパートナー企業に登録した場合は、佐渡市の入札参加時に一部メリット</p>
-----------------------	---

	<p>があるようにしている。佐渡市では建設業のみであるので、サービス業やいろいろな業種を取り入れたいということで、子育てを応援してくれる企業を認証する制度を考えている。企業のPRになり、働きやすい状況が子育て世代の目に触れることにより企業のメリットにもなるような制度を作っていこうと地域振興課と連携を取っている。子育て支援に何が必要なのかとリサーチをして、その上で仕組みを作ろうと進めているところである。企画課と一緒に未来会議を開催しているが、なかなか発展しない。男女共同参画や男性の育児休業取得について何をやるべきか話し合っている。</p>
D 氏	<p>○子どもの育て方、少子化等は待ったなしの状況であると思うが、横つながりの対策等はこれから作られていくのか。</p>
事務局	<p>○少子化は待ったなしの状況であると思うので、子ども若者課だけではやっていけない。来年度にむけて今佐渡市の将来ビジョン、総合戦略等を見直すための取り組みが始まっている。医療・福祉・子育て・教育という形で教育委員会、病院等も含めて動いている。</p>
A 氏	<p>○在園児の母が二人目を妊娠した場合、出産のタイミングで核家族やIターン家庭を除き身近に助けてくれる人がいなければ、一旦退園しなければならないのか。</p>
事務局	<p>○育休をとった場合は、一旦退園していただく制度に切り替わっている。出産後、負担が大きいのは承知しているが、生まれたお子様も上のお子様も一緒に見ていただくということを前提に退園の形をとっている。アンケートでいろいろなご意見をいただいたが、国の制度が導入される中で、児童福祉行政も変わらざるをえない。合併前の旧自治体で許されたことが、現在は保育が必要かどうかをきちんと審査し、適切に入園を許可する仕組みとなっている。求職中であるかどうかの確認も3ヶ月ごとに行なっている。本当に利用したい方が入園できないという状況では本末転倒であるので、退園していただく。幼児無償化導入も踏まえ、ここ数年で旧自治体より厳しい条件とさせていただいていることは事実である。</p>
A 氏	<p>○以前はハローワークに登録していれば入園できた。今は、農家申請をしていて、売り上げも上げなければならないので大変だという声を聞く。</p>

	<p>自分の子であるので、上の子も下の子も同時に見るのは、昔は当たり前のことであったと思う。しかし今の親御さんは器用ではない方も多く、上の子に発散する時間を与えてやりたいとか、慣れた保育園を退園し、また戻る時に大変だという声を聞く。制度はわかるが、これからいかに子どもを産んで、育ててもらいやすい環境を佐渡市が作っていくのかを検討していただきたい。一次希望の保育園に入れたい話を聞いたが、南部の方では子どもが極端に減ってきており、卒園するタイミングで、入園の宣伝もお願いされる。子どもが少なくなっているため、制度ばかりを前面に出すのではなく、柔軟な対応を考えていただきたい。</p>
事務局	<p>○佐渡市では、昨年度 250 人しか子どもが生まれなかった。これから学校に行き、成人をするまでに子どもが 100 人を切ることは見えてきている。この 250 人の子どもが子育て世代になる時にどれだけの人口がいて、どれだけ支えることができるのか不安である。保育園入園について可能であれば全て受け入れたいが、地域により第一希望の保育園に入れたい、もしくは、兄弟で違う保育園に入るといった状況もある。保護者のご希望やお話を伺いながら入園について判断させていただいている。地域で子どもを支えるという意味で、全ての子どもを受け入れたいという考えはあるが、一部制度を活用した中でやらなければならない部分もあると考えている。可能な範囲でお預かりをするが、子どもの視点で考えると保育園での時間が長いことが良いことかどうか、保護者の意見を伺いながら制度を作っていく。</p>
A 氏	<p>○スクールガードリーダーについて 痛ましい事件や事故を受けて、地域ぐるみで見守りをする環境づくりをしてほしい。スクールガードリーダーが一目でわかるような、成果が上がるような運用をしていただきたい。</p>
事務局	<p>○学校の登下校時のことなので、学校教育課に伝える。地域によっては民生委員が見守りをしてきている。通学路の安全点検もお願いしていると聞いている。保育園については、大津の事故を受け、散歩コースの安全点検を全園に通知した。住民からのご指摘もあり、地域の見守りという意識がありがたい。</p>
F 氏（支援学校）	<p>○この会議の場を借りて理解していただきたいことを伝える。 特別支援学校の子どもたちの社会参加や自立について、高等部を卒業し</p>

	<p>た子どもたちの一般就業率は大変厳しい状況である。佐渡の社会福祉事業所もいっぱいであるため、毎日の就労は無理であり、週2日や3日がやっとである。親御さんは不安な中で子どもたちの将来を思っている。障がいを持った子どもたちが、何とか佐渡市の中で社会参加、自立していけるような手立て、方法がないのかという気持ちを持っていただきたい。具体的には、社会福祉作業所等を増やす方向に持っていけないかという要望がある。就学に関しては子ども若者課、子ども若者相談センターの皆さんが、保育園、幼稚園を丁寧に回っていただき、丁寧に保護者に寄り添いながら就学に進めてくださっていることに感謝する。</p>
事務局	<p>○一般就労については難しい状況であると思う。また過去に担当していた経験から、子どもたちの障がいが重度化、重度の子どもが多くなってきていると感じている。その当時の子どもたちは、現在、就労支援事業所に通っており、一般就労はほとんどしていない状況である。国の障がい者雇用率はあがったとはいえ、身体障害者の受け入れはあったとしても、知的、精神の障がいの子どもたちの受け入れは非常に狭き門である。以前、ジョブコーチを導入し、軽度の知的障害者の一般就労を行ったケースがある。ジョブコーチと一緒に一般就労を進めることが必要ではないかと考える。新潟や東京に行けば、車椅子で当たり前のように就業している。佐渡ではなぜできないのかと考えると、まず、佐渡市役所庁舎自体がバリアフリーになっていない等、受け入れ態勢が佐渡は万全ではない。しかし、社会福祉課で障がい者、障がい児の就労の部会をいろいろ設けている。特別支援学校は、実習の受け入れさえも厳しい状況と思うが、その企業を求めるような取り組みもやっている。まず、正しく障がいを理解していただくことが必要だと思う。普通学校の特別学級が適当か、又は、特別支援学校できちんと学ぶことが良いのか指導主事の先生方と連携をとっているので、一つ一つの困りごとを私たちに教えていただき、共にできるところは協力してやっていきたいと思う。もし、保護者が生活に困っているということがあれば、子ども若者相談センターもしくは社会福祉課にご相談願いたい。一緒に考えたい。</p>
A氏	<p>○特別支援学校の子どもたちは、親御さんが送迎しているのか。</p>
F氏（支援学校）	<p>○当校はスクールバスは無い。バス通学もいるが、小学部は保護者が車で送迎している。何とかできないものかと考えるが、経費も含め保護者にはかなりの負担になっていることが現状である。</p>

A氏	○佐渡市として、子どもを良い環境に行かせたいという保護者に対して救う方法、援助等はないのか。
事務局	○特別支援学校に通う子どもの保護者に対して、市内は年間 25,000 円、市外 50,000 円補助の制度がある。車で通学する場合は通学支援制度がある。所得に応じて通学費用や新潟へのフェリー費用等、県の制度を活用していただき、その不足分を佐渡市で補助する形となっている。
B氏	○保育園統合をうたっているが、子育ての方針は佐渡市として全て均一化されているのか。また、小学校と保育園との連携がどのようになされているのか。
事務局	○保育園の統廃合については、合併後 10 年間の統廃合計画が 30 年度にオープンした両津東保育園で一旦完了した。地域性、適正な配置等を踏まえ、幼稚園も含めた統廃合が進んでいくと思う。相川の統合保育園が進み始め、令和 4 年にオープンすると大きな統廃合は終了する予定である。民営化については、経費削減の観点から公営よりも民営の方が若干コストが安い統計結果が出ている。積極的に進めるよう指示はあるが、古くなった建物の整備等に費用がかかるため民営化に踏み出せないのが現状である。また、旧自治体の保育園の土地はほとんど借地であるためデメリットの方が大きい。 小学校とのつながりについては、療育支援等が必要な子どもの保護者に対して、保育支援専門員、巡回専門員が関わり、小学校、教育委員会と連携をとりながら業務を行っている。
B氏	○保育方針や内容等は小学校と連携しているか。また民営化され私立となった場合、同じように連携は図られるのか。
事務局	○各地区の保育園と小学校は情報交換をしている。金井地区については、小学校と保育園と一緒に避難訓練を行っている。全島合わせて保育園と小学校との情報交換会というものはないが、地区ごとで対応している状況である。
B氏	○地区ごとで情報交換をするということによいか。佐渡市としては内容等には関わらないのか。

事務局	<p>○私立の保育内容について言及することはない。しかし、子どもを預かっていただいているので、栄養面は栄養士、生活面等においては、今年度から配置した指導保育士が直接、保育園に訪問して指導することはある。運営面等については、監査で入る以外は特段無い。</p> <p>(第2期佐渡市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査結果報告について)</p>
B氏	<p>○よい内容のニーズ調査であった。ニーズ調査を生かして、佐渡の子どもたちをどう育てていくのか考えていただき、出た意見等を反映しながら行政で生かしていただきたいと強く要望する。</p>
A氏	<p>○教育内容の均一化のところ、海に囲まれた佐渡の特性を生かし、魚のさばき方授業等をプログラムに取り入れてほしい。</p>
D氏	<p>○アンケート結果で、佐渡だから子育てがしたい、佐渡で子育てがしたい、とある。この部分を出さないと、佐渡から離れてしまい、佐渡に来ないという状況である。細かな整備も必要であるが、「佐渡はこんなにも良い」というような「売り」があると良いのではないかと思う。</p> <p>【閉会】</p>